

菊地梯子委嘱作品による

十七絃箏演奏会 vol.2

2026年12月14日 [月]

19時00分 開演 (18時30分 開場)

ヤマハホール 東京都中央区銀座7-9-14

プログラム

翳る 十七絃箏のために 池辺 晋一郎 作曲

群青 三面の十七絃のために 佐藤 敏直 作曲

なばりの三ツ 十七絃独奏のための 吉松 隆 作曲

串人形 牧野 由多可 作曲

ヴァン・アレン 十七絃とマリンバのための 藤田 正典 作曲

出演 木田 敦子 / 平野 裕子 / 河原 抄子 / 池上 亜佐佳

賛助出演 神田 佳子

▶ 入場料 | 全席指定 |

一般 4,000円 (当日券 4,500円) 学生 2,000円

お問い合わせ・チケット申込み

090-3416-0572 (河原)
kazenowa17@gmail.com

チケットは右のQRコードからお申し込みいただけます



主催 菊地梯子委嘱作品による十七絃箏演奏会実行委員会

助成 公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京 [スタートアップ助成]



Photo by AKIHIKO

「十七絃と菊地梯子」

邦楽と洋楽との懸け橋として意義ある演奏活動を続け、文部大臣賞に輝く“邦楽四人の会”において、菊地梯子さんは十七絃奏者として活躍中である。

◆その十七絃というのは、“コトのショパン”といわれた箏曲界の巨星宮城道雄が、大正十年―半世紀前に発明して使い始めた楽器である。“大琴”と呼ばれた時期もあったことでも分かるように、長さ2メートル余りの大型のコトである。文字通り“Grand-Koto”である。

◆しかし、この“十七絃”は、従来の十三絃のコトの音域を中心に、上下に音域を拡大したものではない。従来のコトの音域よりも低い音域だけを受持つものである。つまり、低音専用の楽器なのである。

“Bass-Koto”とごうべきである。

◆十七絃は長い間合奏専門の楽器として使用されたが、近年ようやく独奏楽器としても活用されるに至り、急にその新しい可能性が注目され始めた。その蔭には、菊地さんの功績があったことを忘れることはできない。

◆従来片手間に手がけた十七絃を、専門に手がけた最初の人は菊地さんである。その菊地さんが、“十七絃によるリサイタル”という日本音楽史上企图的な会を開くとのこと。十七絃も満足だろう。宮城道雄も嬉しいであろう。

吉川 英史

1969年 菊地梯子十七絃リサイタルチラシより

賛助出演

出演



池上 亜佐佳



河原 抄子



平野 裕子



木田 敦子



神田 佳子

次回演奏会 2027年12月予定